
貴方たちに

ミルクココア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貴方たちに

【Nコード】

N7235B

【作者名】

ミルクココア

【あらすじ】

ベルモットの、新一や蘭への思いを勝手に想像してかきました。話の中では新一と蘭のことを、CoolguyとAngelと書いていますので、ご了承ください。

Cool Guy、 Angel

貴方たちは、私に何を教えたの？貴方たちに出会ってから、私は人を殺さなくなった。

真っ黒に染まったはずの私が、微笑むようになったわ。

今まで、平気で人を殺してた。なのに、貴方たち出会って私は変わってしまったの。

それが私にとっていいことなのか、悪いことなのかは分からない。

だけど、女の勘かしら？悪くはないような気がする。

貴方たちに出会ったのは、運命？それとも偶然？神様のいたずら？

この世に神なんていないかもしれないけど。

でも、もしもCool Guy、貴方が幼児化したことが運命なら、私が貴方たちに出会ったのも運命よ。

この世に生まれた時から、貴方たちふたりに会うことが決まっていた。

いいえ、出会う運命だったのよ。

出会う運命だったって、思わせて。そのおかげで、私が『心』をも

真っ黒に染まった、この組織と一緒に。

どうせ死ぬなら、貴方たちにうたれたいわ。

だけでもしも貴方たちが私をつつたら、その時の貴方たちはなんともいえない顔をしているでしょうね。

でもいつか、真っ黒に染まった組織を離れて、

Cool クール Guy ガイ、Angel エンジェルがいる場所を

私の居場所だと思える時がくるかもしれない。

その時は、貴方たちと一緒に微笑むから。

いつになるか分からない。その時がくるかどうかも、分からないわ。

いつか人は死ぬ。

年をとらなくても、私が人間であるかぎり『死』はやってくる。

でも死ぬ前に、誰かに伝えたい言葉があるとしたら

貴方たちに『ありがとう』と伝えたい。

貴方たちの使っている、日本の言葉で。

(後書き)

会話文もほとんどなくて、つまらない作品だったと思いますが読んでくださった皆さん、ありがとうございます。多分、今までの私の作品とは違った感じだったと思います。話がいきなり変わったりもして、すごく読みにくかったと思います。

皆さんから、あまり良くない評価をつけること覚悟で投稿しましたので、荒らし以外の評価&感想はつけます!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7235b/>

貴方たちに

2010年12月14日18時44分発行